

20世紀最高の天才といえば「アルベルト・アインシュタイン」といって異論はなかろう。相対性理論は発表当時、当時の世界中の物理学者のほとんどが理解できなかつたほど難解だったという。

そのアインシュタインが残した言葉のひとつを私は大切に思っている。

教育とは学校で教えられたこと全てを忘れ去っても、なおその人間に残るもののことである。

高校受験や大学受験などのために必死で詰め込んだことのほとんどは忘れていくし、教えていただいた先生方からの指導も身に付いているのかは不明である。

それでも私たちは知らず知らずに、学校で受けた教養を生活の中に生かしているのではないか？それは国語かもしれないし、体育かもしれない。または褒められたこと、厳しく叱られたことかもしれない。

私たち長瀬小学校は「コロナ禍」にあっても子供の学力向上への努力を継続しているし、結果も出ているように思う。でも、私たちが本当に子供たちに伝えたいのは、将来にわたって幸せに暮らすための振る舞いや考え方である。

それは普段の授業とならんで大切にしている教師と子供のふれあい、子供同士（同学年・異学年）のふれあいの中から生まれるものと確信している。

「俺、小学校の時、あんまり勉強できなかったけどおもしろかったなやあ！」「んだね。私もだよ！」

そう笑顔で言ってくれればいい。